

- 子実とうもろこしは、子実が完熟するまで生育させて利用する作物です。
- 大豆作との農業機械の共通利用することができることや、栽培管理が省力的なことが、新たな水田輪作のメニューとして取組まれています。

背景・ねらい

- 飼料用とうもろこしは、海外への輸入依存度が高く国産とうもろこしの栽培面積は少ない。
- 水田輪作の中で栽培することで、大豆作との農業機械の共通利用を促進することや、栽培管理が省力的なことが期待できます。堆肥の活用の場として地域に貢献できます。

留意点

- ◆実需者を確保し、販売条件(価格、保管場所等)を整理して栽培を始めます。
- ◆飼料として活用する場合、カビ毒を低減させる取組みとして、害虫防除が重要となります。

詳細情報

農研機構「子実トウモロコシ生産・利用技術」紹介

<https://www.naro.go.jp/laboratory/tarc/contents/smart/corn.html>

○宮城県での栽培スケジュール

		～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月～
とうもろこし	生育段階		出芽期		幼穂形成期			黄熟期				
				3-5葉期		雄穂・絹糸抽出期		完熟期				
とうもろこし	作業	土壌改良資材散布	施肥 耕起 播種 鎮圧 除草剤	除草剤散布		追肥散布		殺虫剤散布	子実収穫	残穂処理		大豆作準備
大豆作業				播種 除草剤	中耕培土		防除			収穫		とうもろこし作準備
水稲作業		播種育苗	田植え	除草剤	溝切り	中干し	防除		収穫			水稲作準備



←害虫対策として雄穂抽出期前に空散防除を実施します



←汎用コンバインにコーンヘッダーをつけることで収穫効率が向上します